# ２０２０年度　学校法人芝浦工業大学　事業計画

学校法人 芝浦工業大学
理事長　鈴見 健夫

## はじめに

世界規模での重大変革期を迎えた今、学校法人芝浦工業大学は、将来にわたりわが国の持続的発展を担う理工学系人材育成を責務として、設置校を代表する芝浦工業大学を中心に学生・生徒のための学校経営を堅持し、建学の精神に基づく教育研究活動の展開に努めます。芝浦工業大学は、五十嵐久也前理事長のもとで確立した、創立 100 周年を迎える 2027 年に『我が国の理工学系私学としてトップの社会的評価を得る』という中長期目標の実現をめざし、教職員一丸となり、全力で取り組む所存です。

創立 100 周年を見据えた重点施策テーマは、改革路線の継続による組織運営体制の強化、学校法人を持続可能とする盤石な財政基盤の確立、SGU 事業の推進による教育研究改革及び学生支援、豊洲第二校舎建設諸作業の完遂、更に 2019 年度から本格始動した駅伝プロジェクトの推進などであり、この実現に向け経営資源の戦略的な選択と集中を進めます。

## ２０２０年度 事業計画

### ① 改革路線の継続

理事会は、2020 年度もこれまでに続き改革路線を堅持し、創立 100 周年に向け新しい価値創造のための経営イノベーションに継続して取り組みます。

熾烈な大学間競争に勝ち抜き各種の目標を実現するには、迅速な意思決定と他大学に負けないスピードで改革を実行することが必須であり、改善改革のスピードアップには教職員の意識改革が不可欠です。このため、事務職員の人事給与制度を、既に職能資格制度から職務資格制度へ改め、人事評価結果を処遇に反映させる仕組みとしました。

教育職員についても、教育職員人事評価制度検討準備委員会の答申を経て、これを具体化する専門委員会を設置し、制度設計に着手しました。FDSD 活動を通じた教職員の能力向上とともに、人事給与制度整備とその適切な運用を図り、組織の活性化を進めます。

更に、2020 年 4 月 1 日より働き方改革関連法が順次施行されたことから、法令遵守と全教職員の働きやすい環境づくりをめざします。また、人事関連の基幹システム刷新により業務効率化を図るとともに、時代に即応した重点分野への人材の集中配分を実現します。

### ② 盤石な財務基盤の確立

学校法人の持続的発展を維持するには盤石な財務基盤の確立が不可欠であり、2020 年度も教育活動収支差額や経常収支差額を確保しつつ、一方で戦略事業に対する投資を行い、また将来の投資に備えた内部留保の充実を図ります。そのため、大学学部及び併設校の 2020 年度入学生から学費の改定を行うほか、寄付金収入増加に向けた多様な取組みの継続、運用収入増加の可能性の検討、そして支出に対する費用対効果の検証の徹底などの収支改善に向けた取組みを実施します。

これに加え、豊洲キャンパス第二校舎の 2021 年度末竣工を見据え第 2 号基本金への組入れを継続するほか、中長期的な施設設備投資の見通しを踏まえた計画的な財政運営に努めます。

### ③ 教育研究改革

芝浦工業大学は『社会に学び、社会に貢献する技術者の育成』を建学の精神として設立され、有為な人材を社会に送り出すことで高い評価を得ています。その考えを現代に敷衍した『世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成』を目標に、2027 年の創立 100 周年にも輝き続ける大学としての地位を維持し、更に前進するため、学長のもと全学的な教職協働による大学改革運動を展開しています。これらの活動と国際交流活動の確かな実績が評価され、2014 年 9 月に文部科学省よりスーパーグローバル大学に選定されました。芝浦工業大学が目指すグローバル大学とは、世界水準の工学教育を教職学協働で進めることです。

これまでと同様、教育面では「学生に何を教えたか」ではなく「学生が大学の教育で何を学んだか」すなわち学修成果を大切にします。学生視線に立つ世界水準の教育をめざし、学生が主体的に学習に取り組めるアクティブ･ラーニングの推進を図ります。その一環として、学生が課題解決に自ら取り組む PBL 型教育を体系的に導入しています。芝浦工業大学は「アクティブ・ラーニングの推進」と「学修成果の可視化」をテーマに、2014 年度から文部科学省の教育再生加速プログラム(AP)の支援を受けています。この支援は 2019 年度で終了しましたが、事業としての成果を活かしながら引き続き全学的な教育改革を進めます。

研究力強化も重要な課題です。教員は研究を通じ自らを磨き、学生のよき見本とならなければなりません。世界の理工系大学では、先端研究の場で学生を鍛えることが常識です。既に豊洲キャンパスならびに大宮キャンパスに最先端研究設備を備えた共通機器センター（テクノプラザ）を開設しており、その実質化を通じ研究活動の活発化を図ります。組織的な研究支援体制も構築し、教員の外部研究資金の積極的な獲得を推奨します。世界大学ランキングを意識した論文件数の増加と、世界をリードできる研究分野の構築を進めます。更に大学は地域とともに発展すべきという考えのもと、地域との連携研究も推進し、これらを総合し研究力の高い大学をめざします。

スーパーグローバル大学として、外国人教員の戦略的採用、教職学協働による国際化とダイバーシティ（多様性の受容）の推進に積極的に取り組みます。これまで同様、英語による講義数の拡大や留学生増をめざします。また、文部科学省が推奨する国際理工学専攻と、システム理工学部に設置された海外留学を必修とする国際プログラムの拡充を進めるとともに、2020 年 10 月には英語のみで学位を取得できる先進国際課程を工学部に設置します。

ダイバーシティには男女共同参画推進も含みます。女性が活躍できる大学は、男性も力を発揮しやすい大学となるはずです。女性教職員及び女子学生を増やし、女性の活用を積極的に進め、男性とともに女性が輝くことのできる理工系大学をめざします。

更に芝浦工業大学の強みの一つである建築系学科再編により誕生した建築学部では、グローバル化を視野に入れた世界水準の建築教育を目標に大学院設置をめざします。

### ④ 学生募集とキャリア教育

大学及び併設校の入試において、いずれも一定規模の志願者を堅調に獲得しています。2020 年度に向けた大学の一般入試志願者は定員の厳格化や受験生の安全志向を背景に減少となりましたが、特別・推薦入試などでは志願者募集を強化し、特に高い英語力を求める指定校推薦で多くの優秀な志願者を集めています。また、英語で学位取得が可能な先進国際課程の募集広報や入学者選抜を鋭意実施しています。引き続き、文部科学省の高大接続改革の動向等もふまえ、総合的・多面的な入試を進め、更に学生募集におけるダイバーシティの推進・拡充に取り組みます。

芝浦工業大学は「就職に強い大学」との社会的評価を得ており、就職率は極めて高い水準

の実績を残しています。高い就職率のみを追うことなく、質の高い就職先であるかを重視し、学生が真に希望する就職実現に向けたキャリア教育を展開することで、有名企業への就職ランキングでも上位にあります。我が子の自立を願う保護者の皆様の思いを真摯に受け止め、就職力向上のため学生の指導に尽力します。自分のやりたいことを学生に明確に意識させ、学生時代は人生で真剣に勉学に取り組む最後のチャンスであり、遊んでいる暇はないという自覚を促します。就職内定が決まりさえすればという安易な姿勢から脱し、より高い目標を設定し志望企業にチャレンジする強い気持ちを持つよう指導します。芝浦工業大学校友会、同後援会との連携も強固なものとし、学生の就職力向上、質の高い就職実現に向け協力体制を維持強化します。

**⑤ 学生支援の充実強化**

芝浦工業大学校友会、同後援会との連携による就職支援、課外活動支援や留学生を対象としたインターンシップなどの各種イベントの継続実施、学生満足度調査アンケート結果をふまえた組織的な学生支援の充実強化などに努めます。また、スーパーグローバル大学として学生の海外留学への財政面を含む積極的な支援、TOEIC スコアの向上による学生の英語力強化支援などを継続していきます。その他、SIT 賞や課外活動奨励金、学生プロジェクトなど学生の課外活動に関する支援にも引き続き力を注ぎ、あるいは寮機能を有する施設確保などにより東京近郊における学生の居住環境の向上を検討します。

**⑥ 中高大連携強化と理系女子の育成**

**（芝浦工業大学附属中学高等学校）**

2021 年 4 月から中学校にも女子を受け入れることが決定し、中学・高校とも完全な共学校となりますが、まずは募集を成功させるために全校挙げて取り組みます。入試、教育課程、生徒指導、課外活動などについて準備を進めます。中学では大胆なカリキュラム改革を行い「グローバル・IT・デザイン」をキーワードとした教育を展開していきます。また高校ではグローバルクラスの設置と芝浦工業大学の学科選択のためのレポート作成など、附属校にふさわしい学びを経た生徒を大学に推薦するための改革を行います。

**（芝浦工業大学柏中学高等学校）**

柏中学高等学校が、2018 年度に文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に再度指定されたことを機に、これまで以上に大学との間で実施する中高大連携活動、例えば大学主催の国際 PBL やシンポジウムに積極的に参加します。また、大学・大学院の学生、海外からの留学生などを TA とした課題探究活動やワークショップを大学と連携して企画します。更に芝浦工業大学、柏中学高等学校、芝浦工業大学の海外協定校であるベトナム FPT 大学、その付属高校との相互交流を推進します。

理系女子の育成については、芝浦工業大学・大学院の女子学生の協力、又は社会で活躍する女性を講師に迎え、「リケジョ・カフェ」を開催し、中学生からの女子のキャリア教育を充実させます。

**⑦ キャンパスや諸設備の整備**

2019 年 11 月、創立 100 周年事業である豊洲キャンパス第二校舎建設が着工しました。2022 年度の開校に向けて、豊洲キャンパス全体の利活用についても検討を進めます。大宮キャンパスでは新たにグランドデザインを策定し、実現に向けたロードマップに基づく整備を開始します。更に、開校 40 周年を迎えた芝浦工業大学柏中学高等学校の校舎等将来計画の検討を

引き続き行います。その他、各キャンパスのセキュリティ確保のための入退館システム更新、研究・教育充実のための施設設備整備及び老朽化した設備の更新、化学物質に関する安全管理を継続的に行います。

**⑧ 併設学校の強化**

厳しい私立中高競争の中で選ばれる学校となるためには、学校の個性化が必要です。附属中学高等学校には STEAM（Science、Technology、Engineering、Art、Mathematics）教育と大学との接続、柏中学高等学校は SSH の実践と高い進学実績という強みがあります。両校ともこの特長を更に強化する方向で教育改革を進めていきます。大学入学共通テストへの対応、高校学習指導要領の改訂など、日本全体の大きな教育改革に対応すべく準備します。

施設設備の面では、遅れていた柏中学高等学校の教育 ICT 設備（Wi-Fi 環境の充実、プロジェクター付ホワイトボードなど）の整備を引き続き進め、また近年の猛暑対策として体育館の空調化を行う方向です。これにより私学として魅力ある教育環境の前進を期待しています。

また、附属中学高等学校では、オリンピック・パラリンピック競技会場に近隣するという地の利を生かし、生徒の一生の思い出に残るようなイベントをその開催期間中実施する計画です。

中高教員の働き方改革を進め、教員がより教育に注力できる環境を整備していきます。

**⑨ リスクマネジメント体制の強化**

学校法人芝浦工業大学は、2011 年 3 月に発生した東日本大震災の直後に、主に大地震などの自然災害に対する備えと、災害発生後における復旧・復興計画立案のために「危機管理室」を設置しました。以降、危機管理室では「災害危機管理基本計画書」（防火・防災業務の総合的かつ計画的な推進を目的とする）の策定、及び本法人設置各学校における「災害対策本部運営要領」（大地震等災害発生時の対応）などの策定を行ってきました。また 2019 年度には、リスクマネジメントにおける大きな目標であった本法人「事業継続計画」（BCP）をとりまとめ、具体的運用に至っています。

これらの計画や運営要領は、時間の経過とともに実態にそぐわない部分が多々発生するため、今後も毎年全体的な見直しを行い、防災・減災・復旧に関して実効あるマネジメント体制の整備を行います。特に 2020 年度は、「重篤な感染症」の部分について検討・見直しを加えます。また、これまで課題として取り組んできたリスクマネジメント拡充のための啓蒙・啓発活動については、2019 年度に引き続き、学生には「ソーシャルメディアポリシーの周知・教育」を展開するほか、教職員には「災害対策本部運営要領」、「事業継続計画（BCP）」及び「リスクマップ」等に基づく実地訓練や座学研修を反復実施し、リスク認識の一層の強化を図ります。このほか、2020 年度には国（総務省等）の指導でもある情報セキュリティ対策について、本法人としての「情報セキュリティーポリシー」（基本方針・対策基準・実施手順）を策定します。

**⑩ 地域貢献・社会貢献**

これまで進めてきた地域や自治体と連携した教育・研究・社会貢献を一層進め、地域社会、また産学官連携の中核的存在としての大学の機能強化に努めます。特に 2020 年度は、東京オリンピック・パラリンピック成功に向け学校法人芝浦工業大学として設置した五輪連携委員会を中心に、関係機関との協力連携を図ります。大会期間中はフランス代表選手団の豊洲キャンパス施設利用にも全面的に協力し、選手のためにリラックスできるスペースや選手とコーチ・関係者との試合前の打合せ、試合後の分析・フィードバック、あるいは試合前の選手

の集中力向上やメンタル面の強化に使用するスペースを提供する予定です。また、子どもから大人まで幅広い世代を対象とした生涯学習公開講座を継続実施します。公開講座は、芝浦工業大学の教育・研究成果の地域社会への還元と学びの場を提供することを目的として展開しており、2020 年度においては SDG s の各目標を意識したテーマでの講座や社会人を対象としたリカレント教育や子ども向け講座の拡充・強化を図ります。

以　上